

議題			
第7回 中富良野町景観計画策定委員会			
開催日時	令和5年1月31日(火) 午後6時00分～午後8時00分	開催場所	中富良野町役場 会議室
出席者	策定委員	大矢、細川、内田、長谷川、本間、荒木、安井、畠尾、菅、遠國	
	役場	事務局(企画課)	
	KITABA	窪田、百瀬、松浦	作成者 KITABA:松浦

議事内容

1	<p>自由意見・質問</p> <p>① 景観計画の名称や景観まちづくりの考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観計画と景観まちづくりが同様の働きをすると説明があったが、同様ならばどちらかの言葉に統一してはどうか。景観計画とは別に景観まちづくりという考えがあるように見える。(委員) ・景観を良くしてまちづくりをしていく計画であれば、「景観まちづくり計画」としてはどうか。(委員) ・景観計画と景観まちづくりをつなぐような言葉があれば、もっと理解しやすくなる。総合計画の中に位置付けられていることを明示してほしい。(委員) <p>→他都市の事例として、検討過程のコンセプトやまちづくりに繋がる取組を重視して、「景観まちづくり計画」といった別の名称を使う自治体もあるが、景観計画は景観法に基づく計画であることから、案として名称は「中富良野町景観計画」としている。(事務局)</p> <p>→中富良野町の総合計画の中に位置付けられ、町全体のまちづくりと景観計画の関係性がわかるように第1章に文章を追加する。(委員長)</p> <p>② 北星山エリアの取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観計画では強い規制はできないと思いつつも、北星山のエリアできつい原色を使わない等、今後、もう少し強い規制内容としても良いと考えている。(委員) ・北星山エリアを景観重点地域としてガイドラインを示し、理想像を表現してはどうか。(委員) <p>③ 景観まちづくりの5つの視点「磨く」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画P56の景観まちづくりの5つの視点において、「磨く」は「育てる」の方がよりしっくりくる。育てることは大事である。(委員) <p>→今あるものを整頓するというイメージで、当初は「磨く」の代わりに「整える」も考えていた。「育てる」とすると、次世代に「つなぐ」という部分で意味合いが重複するかもしれない。(事務局)</p> <p>④ 総括</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルを回し、より良い未来に向かって景観を繋いでいきたい。(委員) ・中富良野町らしさを表す農村の景観を守っていけるよう、それぞれの立場で取り組んでいきたい。(委員) ・この後のルールづくりでは、町の一定の強制力があることを町内外の人に伝えてほしい。(委員) ・町民の意識も人それぞれなので、景観の取組をどう促していけるか改めて考えさせられた。(委員) ・自然と目に入ったものが中富良野町の景観として染み付くようになれば、景観をつくる意義となる。次世代に繋いでいきたい。(委員) ・策定委員会に参加するまで、町の景観を当たり前のもので捉えていたが、見方が変わった。より良い景観の町になってほしい。(委員、副町長) ・景観を良くするためにビジョンを理解してもらおう努力が必要。条例ができてゴールではない。(委員) ・中富良野町の子どもから大人までが、景観を意識できるような町にするため、皆さんの協力とご理解をいただきながら、今後も進めていきたい。(町長)
---	--